



県知事選挙 (1/20~2/6)

新婦人山口県本部会長 **ちばまり**さんが立候補
 選挙母体「誰ひとり取り残さずみんなの声をいかに山口」。
 共産党推せん、社民党と新社会党が支持。みんなの会、市民連合@やまぐち推せん [写真はちばまりさんの事務所開き兼囲む集い。山口市・12月19日]



山口県本部版
 NO 280
 治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟
 山口県本部
 〒754-0004
 山口市小郡金堀町
 21番の1
 林洋武方
 電話&FAX
 083 (972) 3987

謹賀新年

◆2022年県内の選挙

県知事選挙↓2月6日

山口市、下松市、萩市↓4月

参議院↓7月

岩国市↓10月

◆劇映画「わが青春つきるとも

―伊藤千代子の生涯―。原作者の

藤田廣登氏を招き2月23日サンフレッシュ山口
 で学習講演会。当日映画を成功させる会(実行委員
 会)を立ち上げる予定。

◆センチユリー裁判

1月の公判に向け署名すすむ (写真右)

◆国賠同盟顧問の藤田廣登氏執筆の「治安維持法成
 立から100年―21世紀を真に人権と平和の世
 紀にするために」パンフが届きました。学習用に最
 適です。(無料)

◆同盟署名は12月現在個人185筆



最後の4・16被告 田熊真澄さんへ聞く

〈その9〉

再上京と三・一五、四・一六 事件統一公判

田熊 昭和七年（一九三二年）の春、大谷みつよさんから「公判闘争が手薄なので、上京して手伝ってほしい」と手紙があり上京することにしました。親達には、「裁判も続いているので」といつて二〇円もらって、森安君などに見送ってもらい柳井駅を立ちました。

大谷さんとはそれまで顔見知りではありませんでした。上京したとき大谷みつよさんの下宿高田馬場だったと思います。そこで打ち合わせをして、下宿は再び浅田彦之丞氏にお世話になりました。生活費がなくて、浅田さんの子どもさんの家庭教師をして下宿代を浮かしました。

それまで下宿代などきちんと納めていたので浅田さんには信頼もありました。

家から仕送りはなく、一番困ったのは活動する交通費がなかったことです。省線がたしか十銭ぐらいだったと思いますが、それがないので人から借りたこともあります。

上京したら、交通運輸部の代表をしていた荻野増治（宮本顕治を売ったことで有名）が党活動でもぐつたため、公判の被告の交通運輸部の代表にさせられました。また、赤色救援会（モップル）の城南地区の責任者にもなりました。

救援会は非合法の組織でしたので活動は難渋しました。増上寺の海側の芝浦地帯には貧民窟といったところがあり、その多分朝鮮人の民家だったと思いますが、時々会議をやりました。赤色救援会の組織部長は朝鮮人

でした。あとは街頭の連絡が中心で渋谷や大崎や芝浦など回りました。渋谷の自動車区の女性車掌なども訪ねて連絡しました。が、あのころ結核になっていた活動家が多かったのが印象的でした。私は、若い頃は人見知りせず、どこにでも出かけて話し合える性質だったのでオルグには苦痛はありませんでした。

同時に、三・一五、四・一六事件統一公判闘争に加わりました。週に二回の割で公判がありました。最初の数回は参加できませんでした。最初はが以後はほとんど出廷しました。獄外被告ということで大谷さんといつも並んでいました。ここに「プロレタリア科学臨時増刊号」があります。日本共産党公判闘争傍聴記録（第一輯）特価三〇銭 昭和六年十一月五日発行。これには傍聴記録があり当時の雰囲気がかかります。

林 いやーこれはたいへん貴重な資料ですね。全国的にももう何冊も残されていないのではないでしょうか。

田熊 そうでしょう。みなさんにお貸ししているんです。しっかり読んでみてください。

東京地裁の二号法廷、一番大きな法廷と言うことでしたが、傍聴は四十人から五十人くらい一杯でした。ただ、傍聴は特高関係者が入っており、一般傍聴者は限られていましたので被告側の傍聴がどのくらいかわかりません。それまでは共産党事件は非公開だったのですが、この公判は公開でした。しかし警視庁や特高やら一杯来ており、一般傍聴者は限られていました。 つづく

前号の記事中、松下工業高校とあるのは下松工業学校の誤りでした。お詫びして訂正します。